

玉置之巨杉



発行 玉置神社
令和6年9月1日

電話 0746-64-0500

FAX 0746-64-0429

〒647-1582

奈良県吉野郡

十津川村玉置川1

祭典のご案内

「出雲大社教玉置教会秋季祖霊祭」 九月秋分の日

「玉置神社例祭」 十月二十四日 「年越大祓・除夜祭」十二月三十一日

「歳旦祭」 一月一日

「初午祭」 三月二日

「令和の大改修を

立上げ、

今、思うこと」



皆様、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

令和六年も、早半年以上が過ぎました。世界に目を向ければ、本年も色々なことが起きております。ロシアのウクライナ侵攻、未だ終息する気配はありません。イスラエルとパレスチナの戦いもいまだ収まっていません。いかなる動機や理由があろうとも、軍事行動は絶対に許されるものではありません。一刻も早く終わりにしていただき、平和な生活に戻るよう心からお祈りするばかりでございます。

私は、玉置神社に最初に御奉仕させていただき以来、早十三年目になりました。色々なことがあるのは人生の常ではございますが、神社であってはならない裁判も経験しました。

令和二年に丸田責任役員を会長として「令和の大改修」を立ち上げましたが、それ以来参拝される方は大幅に増えております。大改修は多くの人のご賛同を得て、北は北海道、南は沖縄までたくさんの方々からご奉賛を戴いております。

「令和の大改修」を立ち上げた際は、

先ず本殿の改修を考えていたのですが、数十年来の念願だった国の重要文化財「社務所及び台所」の建造物保存修理の話が県の方からありました。玉置神社の一番の懸案事項であった「社務所及び台所」の保存修理の話が突然入ってきたには大変驚きました。重要文化財であります。「社務所及び台所」の保存修理には莫大な経費並びに村及び議会、責任役員・氏子等の承認及び了承も必要であり、玉置神社だけで決定出来るものではありません。しかし、これらの問題も、関係各位の御協力の下にスムーズに着手すること

ができました。

その他、「令和の大改修」の一環でありますバイオトイレの新設、神武社・若宮社の改修、水の神「真名井社」の建替も順調に終了致しました。年内には本殿横の「神輿殿」の大改修も終了する予定でございます。いろいろなことがすこぶる順調に進んでおります。

ただ、令和二年から十年まで予算は、約十二億ということで立ち上げましたが、コロナ禍の影響、また物価高により、期間は十一年度末に延長、予算も増大する傾向がございます。

玉置神社に御奉仕させていただき以来、今つくづく感じ思っておりますことは、「令和の大改修」は玉置の大神の御意思だということです。「令和の大改修」を立ち上げてから、玉置神社に参拝に来てくれる方は三倍から四倍に増えております。そして、大改修には多額の資金だけでなく、国・

県並びに村等関係機関の協力がなければ

できませんでした。このような玉置神社

始まって以来の大規模な改修は、我々人間だけの力だけでできるものではありません。大神の導きがあるからこそ、このように順調に物事が進んでいくのです。大神の御意思がひしひしと感じられる毎日でございます。

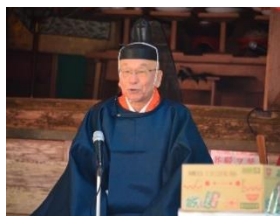
玉置神社は凄いい神社でございます。今や、この十津川村だけでなく日本国の財産・宝でございます。我々玉置神社職員・責任役員等は、全身全霊、玉置神社を守り、後世に引き継いで行かなければなりません。それが我々に与えられた責務だと思っております。

皆様、何卒、今後とも玉置神社のご

と宜しくお願い致します。

最後になりましたが、皆様の今後の益々のご活躍・ご健勝を心よりお祈り致します。

宮司 舛谷 武



「大日堂転換祭」

二月三日(土)

毎年節分の日に、「大日堂転換祭」が斎行されます。

大日堂社の中央に大日如来尊像が鎮座されていますが、実は、胎蔵界を治める大日如来尊像と金剛界を治める大日如来尊像の二体が背中合わせに鎮座されています。



「三柱神社初午祭」

三月七日(木)

摂社「三柱神社」の初午祭は、毎年三月の第一午(うま)の日に斎行されます。

七日当日は見事な晴天に恵まれ、前日までの雨が嘘のようでした。今年も天気にも恵まれました。参拝

された方々は、満面の笑みを湛えながら餅を拾い、そして、振

る舞われたぜんざいに会話も弾んでいました。御祭神の倉稻魂神(うかのみたまのかみ)、天御柱神(あめのみはしらのかみ)、国御柱神(くにのみはしらのかみ)は、この様子を眺めながら微笑んでおられたのではないのでしょうか。



古くより玉置のお稲荷さんとして親しまれ、また、玉置山の地主神とも言われる当社は、商売繁盛、厄除け、病氣平癒等に靈驗あらたかな神社です。約百人の熱心な参拝者は、初午祭に厳肅な気持ちで参列され、神様に感謝の気持ちを届け、内なる願いが叶いますようにと静かに手を合わせました。

舛谷宮司は、神社に対する平素のご崇敬とご支援に感謝の気持ちを述べられた後、当神社のご神徳を護り継承することが、ご参列の皆様を含め我々の責務であると優しくそして、力強く話されました。



「白山社例祭」

五月六日(月)

皐月の六日、生憎の雨天となり白山社例祭は、本殿より遙拝として斎行されました。

白山社の両側には真神の役目を持つ神がいましたが、社に向かつて右側の神が朽ちてしまいました。例祭が近づくある日、鳥居奉納という思いもよらぬ有り難いお話が届けられました。その上に、別の御仁より注連縄奉納という神社の悩みを見透かしたような絶妙なタイミングの御厚意を賜りました。

四月十八日に、鳥居が設置され、四月二十四日には注連縄が奉納されました。

今では、美しい鳥居と注連縄が設置された白山社が益々輝いて見えます。いつまでも当社を崇敬してくださる方々及び辻建築様に心より御礼申し上げます。



「玉石社例祭」

五月十三日(月)

本年度の玉石社例祭は、降雨の為本殿で執り行われました。本殿には玉石社方向(東向き)に遙拝用の開き扉が設けられており、それを開扉した所に神饌等がお供えされ祭事が進められました。

雨天にもかかわらず熱心な崇敬者が参集され、手を合わせる姿に玉石社に寄せるお気持ちを再認識させられました。

「石楠花の花殻摘み活動」

六月六日(木)

十津川村観光協会による石楠花の花殻摘み活動が、二十五人の参加者により行われました。毎年実施してくださる恒例の行事です。お陰で本年も美しい石楠花が咲き誇り人々の心を癒やしてくれました。



今回は、天気に恵まれ、田花会長の指導の元、どんどん作業が進み、午前中で終えることができました。観光協会様、そして、参加くださった方々に心より感謝申し上げます。



当社、新神職の紹介



私は、令和五年(昨年)十二月末に入社し、令和六年三月に行われた皇學館大学の研修にて神職の資格を取得いたしました。平成三年生まれの**山田 祥(やまだ しょう)**と申します。

初めて玉置神社を知った十年ほど前より、崇敬者の一人としてお参りをしております。

きっかけは、気持ちが悪くなり、インターネットのある方のブログで玉置神社を知りました。

初めてお参りした時のことは忘れられません。参道のはじめの分かれ道を右に下り、最初に見えてきた太く大きな杉の木に手を合わせたことが始まりでした。それまでは神社に行っても心ここにあらず。形式のお参りをすゝるのみで、おみくじも嫌って引こうとはしませんでした。しかし、そんな私

しており、参拝が終わり山頂経由で帰る下り道では「また次も来たい」「帰りたくない。」などという感情が溢れておりました。

理由は分かりませんが、初めは玉置神社の存在や場に対してとても強く惹かれたことを覚えております。それから一年に一度は参拝し、残りの人生で今後何度参拝できるだろうかと思える程でした。

半年前までは県外で働いていたこともあり、まさかこのように憧れの玉置神社で奉職できるなど、夢にも思っておりませんでした。今生では難しいだろうから、来世があれば十津川村に生まれて、玉置神社にてご奉仕がしたいと考えていたからです。

今生でいただいた多くの大切なご縁に心からの感謝を抱き、これより先にも神明奉仕に努めて参ります。また、これからの人生全てを玉置神社の国常立大神にお捧げ申し上げ、私が道を誤らない限りは、できるだけ長くおそばにおいでいただきたいという気持ちで、日々ご奉仕して参る所存です。若輩者ですが、どうか宜しくお願ひ申し上げます。



神社のご案内

春、桜の開花

今年の開花は四月五日頃でした。池の上方面にあるクマノザクラが境内で一番先に開花しました。白に近い薄ピンクの花がクマノザクラ特有の細い枝先に咲き、玉置山の春の訪れを感じさせてくれました。

鶯の美声が響く頃

四月十五日、境内に、春告げ鳥・花見鳥・経読み鳥とも呼ばれる鶯の囀りが響きだしました。常立杉の下方に群生する石楠花の中に住んでいるようで、日々鳴き声が上達し、その美声に心が和み元氣付けられます。

参、ボケの花



四月十八日、出雲大社教玉置教会の社殿前の齋庭にある「ボケ」の花が見頃を迎えました。真っ赤な花びらは杉木立の中に一際眩しく目に映ります。その上方に咲く桜と青空を重ねて眺めると、玉置の自然の素晴らしさに感動します。

四、石楠花の開花一番



四月十九日、この日は気温が上昇し、晴天に恵まれました。すると、本殿前の石楠花に変化が現れ、素晴らしく光り輝く濃いピンク色のつぼみが出始めました。

毎年この石楠花が一番先に開花し、その数が日を追うごとに増えていきます。花の美しさは、長雨等が影響するため、開花後の天候が気になるとなります。

特集

「神武天皇」大和入御の御道筋

十津川史に観る光輝高い「二大史実」

○建国創業の聖天子「神武天皇」大和入御の御道筋たること

○建武中興の偉業に功績を建てさせ給う武勇宮「大塔宮護良親王」御潜匿の地たること

「この一つ「神武天皇」大和入御の御道筋かう、当社社の謂われを再確認する」

御道筋は、「古事記」「日本書紀」により諸説存在する。その上で『十津川郷』西田正俊著に依る考察をここに記載する。西田氏は、次の五点の理由で十津川説を説いている。

- 第一** 熊野三山の最も古きは本宮で、第十代崇神天皇の御代に創建せられ、而して玉置山も同じくその御代に神社が創建された。この深山に新宮より早く神社が創建されたことは、玉置山には古代既に大和平原に通ずる一条の道筋が開けていたことを肯定し、同時に神武天皇大和入御の道筋に当たることが拝察できる。
- 第二** 当社の御祭神は、国常立尊、伊弉諾尊、伊弉冉尊、天照皇大神、神日本磐余彦尊にあらせられる。当社に上古から神武天皇を御祭りしていることは、同山が建国の始め玉歩を運ばせ給ひし聖跡であるからである。
- 第三** 熊野から皇軍を嚮導申上げた『八咫鳥』は、我十津川の遠祖なりと伝わる。この一事を以てしても御道筋は十津川なると拝察できる。
- 第四** 大字折立には、神武天皇御休憩の場所と伝わる所がある。折立の名称は、元「下立」と書き其の起こりは、皇軍が玉置山より下りて立たれたからだと言われる。古事記の『其八咫鳥の後より幸行でまし、かば吉野河の河尻に到りましき』との記載に適合一致する。
- 第五** この史実は、当社の末社「玉石社」に伝わる謂れに繋がるのである。

改修工事進捗状況

☆重要文化財 社務所及び台所

修理現場より

県文化財保存事務所発行文書から

過去の姿を知る〜下張文書編〜

襖の下には、骨を固定するために何枚もの紙が貼られています。昔は紙が貴重だったので、不要になった紙を使うことが多くありました。これを下張文書（したばりもんじよ）と呼んでいます。



御殿の間と孔雀の間境の襖は狩野派の絵師 橋保春による花鳥画で知られていますが、この襖には合わせて、六百十四枚の下張文書が貼り付けられています。種類別では、物品を売買した時の証明書である「仕切状」や出納を記した帳面類が最も多いですが、玉置山にあった「多門院」や「高室院大僧正様」あての書状もありました。

変わったものでは、薬の効能書が二枚見つかっています。



右の例は風邪薬ですが、産前産後の養生、疱疹、痛風から冷え性まで効く万能薬であると謳われています。奈良で薬といえば宇陀松山が有名ですが、これは京都から買ったものようです。

また、珍しいものでは、高野山のものと思われる修理関係の文書が含まれていることも注目されます。



右の文書は、修理に際して入札を行った際の仕様書のように、「一心院」、「千手院観音堂」、「獄弁天之宮」などの名称が見えます。「獄弁天之宮」の項目では、建物の柱の根継や側板の取り換えをする旨が記されています。この続きには、万延元年（二八六〇）に焼失してしまった青巖寺本坊（金剛峯寺本坊の前身建物）についての記述もあります。高野山の文書が玉置山にある理由は不明ですが、この襖絵を描いた橋保春は、文化十年（二八一三）に高野山細見絵図とい

高野山の鳥観図を発行していますし、高野山の子院などにも作品を残していますので、その関係で持ち込まれたのかもしれないかもしれません。直接玉置神社に関わる文書ではありませんが、地域の歴史を考える上で意義深いものです。

〔現在と今後の工事〕

内部造作を解体しています

社務所では、内部の造作の解体が進んでいます。四月には、旭鶴の間と鶴の間の板壁を解体しました。この部分は幅九十センチもある杉の一枚板が使用されています。彩色があるので、傷をつけないようにあらかじめ表面を和紙で養生した上で、慎重に取り外しを行いました。

現在は、台所や社務所の天井板の解体を進めています。社務所の南側は大きな改造はないと見られていましたが、廊下の天井を外したところ、改造の痕跡が多数発見されました。過去にどのような姿をしていたのかは、これから検討していきます。

素屋根を建設します

今年八月下旬より、社務所と台所の全体を覆う素屋根（すやね）の建設を行う予定です。ご参拝の方にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

『令和の大改修奉賛会』奉賛者一覧

敬称略(令和六年一月一日〜令和六年六月末日)

(ア) 青木博司、青山敦子、青山友紀、アカデミー(株) 花島淳一、赤堀雅弥、秋月正之、秋葉捷、秋山須美子、秋山富江、秋山吉正、浅井澄江、浅井誠智、朝川直子、浅田孝司、浅野元世、東佳世子、東剛、東寿子、阿竹綾子、阿竹輝緒、吾妻由隆、東喜則、阿部郁真、阿部邦彦、阿部恵子、阿部千賀子、阿部零羅、天野宏一、阿万誠子、荒川知子、荒木江利子、荒木眞澄、有賀美知子、有山明子、安藤ユカリ、(医)一齒会 川島達人、(医)ひろかみ歯科医院 廣神克彦、飯田貴司夫、飯塚秀俊、猪飼光樹子、井川元介、井川幸英、池下かな子、池田博美、池田曜子、池藤昭、石井和子、石井利樹、石井富子、石井博志、石井佳子、石川悟子、石川満帆、石黒良夫、石崎幸子、石崎哲也、石田さかえ、石田隆生、石田順子、石塚勝也、石のかつら、岩崎弘司、石橋正明、石原成洋、石渡由美子、泉谷幸、和泉正、磯かおり、磯野安代、板橋佳那美、市川鈴子、伊藤貴美、伊藤貴美恵、伊藤賢一郎、伊藤憲司、伊藤純子、伊藤孝志、伊藤環、伊藤珠暉、伊藤剛、伊藤敏一、伊藤正樹、稲熊憲彦、井上梅野、井上秀樹、井上真一、井上匡、井上佳子、井上里江、井場鉄工(株) 井場啓之、井原千佳子、今泉美由紀、今泉有美子、今枝圭司、今北元一、今村裕之、岩上晶胡、岩崎祥代、岩崎成子、岩瀬良治、岩ノ谷不動講 山崎昌美、上田泉、植田和樹、植田恵子、植田高正、上田暢子、上田史、植田眞子、植田友紀、植竹達也、上野智子、上野朋子、上野晴人、上野人士、上野りか、上松美鈴、上道多美恵、植村真弓、魚重寿司播家一同、宇賀神直也、宇佐見信二、氏家珠実、宇陀裕弘、内田周志、内田ゆかり、内館麻子、内林義治、内山洋子、宇宙歯科クリニック 廣神崇史、産屋敷健一、梅田喜美子、瓜生志保美、江木寿好、江口順子、江口由香里、江田裕子、枝重美穂、江藤宏、海老澤信之、江間貞治、JTB Group 松井順一、エム・エー・ユー(株) 前川善行、大江紀子、大川博子、大崎信久、大田篤、太田博隆、大谷富士子、大玉守洋、大冢章子、大塚達也、大塚勇祐、大坪泰輔、大野貴代、大野主税、大羽弘晃、大橋喜光枝、大平悦子、大平秀樹、大深景子、大前宏敏、大宮我聞、大屋敷勉、大脇澄代、岡謙介、岡美紀、岡崎正嗣、岡田章、岡田砂織、岡田友子、岡田祐佳、岡地雅樹、岡本はな、岡山睦子、小川清國、小川聡子、小川健、小川夫由佳、小川義宏、奥晴寛、奥須賀福恵、奥須賀良徳、奥田勝則、奥田桐莉、奥野新、奥野幸代、奥野将太、奥野雄太、小倉知子、桶屋良祐、尾崎静代、尾崎幹、小澤明美、小田智子、小田佳子、

落合保彦、落合礼子、音なぎ律子、鬼沢有紀子、鬼塚佳代子、小野邦彦、尾上花枝、尾畑勝吉、小原明日香、尾原常美、

(カ) (株)愛知鋼管 濱田宏弥、(株)阿畔はこぶね 川崎めぐみ、(株)アクアリンク 勝村耕司、(株)永建 末永智也、(株)エム・シー富士 松井英樹、(株)エルコーポレーション 成田薫、(株)オビワン 角張慎哉、(株)ONWIPPS 田口眞嗣、(株)懼コーポレーション 渡辺勝見、(株)GASGAS エネルギー 秋元潤一、(株)GASGAS エネルギー 秋元美樹、(株)鳥森電気製作所 加藤茂、(株)菊岡金物店 菊岡徳高、(株)KKFacts、(株)KENSUO 犬塚雄詞、(株)公和設備 田中伸樹、(株)山薬 要正子、(株)下田商店、(株)新星 鶴飼義嗣、(株)住まいの創造館 ネットラスト 川東正和、(株)すみせい 川越寿美代、(株)ゼン、(株)たんぼぼ 伊藤祐之、(株)地球Labo 上野晴人、(株)チャム 幸田広光、(株)統建 勝田浩史、(株)東洋測量設計 池田繁、(株)トクエイ 児島徳和、(株)中尾組 中尾隆成、(株)野嶋石材店 野嶋正之、(株)Egater 村上昌彦、(株)ハイスパークジャパン 水野道長、(株)萩金物 鮫島光由、(株)BspokeProfessionals 大内宏貴、(株)BTOK 平林真奈、(株)フジシード、(株)プラスティテン 原川尋子、(株)ブレインパレ― 濱津寿、(株)ホルミシスメディカル 西川浩介、(株)マジブルー 黒田益己、(株)丸松建設 棚原義隆、(株)ミサトコーポレーション 鈴木猛、(株)ミズノ 水野道長、(株)三結 新井和明、(株)MITSUYA 山本忠正、(株)ヤスタアセツ トマネジメント 安田一彦、(株)夢殿 新保泰秀、(株)ヨシオカ 吉岡健太、(株)ライフクリエイト 工島辰公、(株)Line1、(株)Lithemph 金子久之、(株)ルミアン 井上方宏、(株)YKワールドビジョン 根本輝尚、甲斐理恵、海光広宣、貝瀬愛美、海堀友良、各務恭子、垣平裕司、垣本博雄、嵩郁美、笠間広明、風間亮、香島宇英、柏俊行、梶原慶一、片桐慎也、片山善雄、加藤悦子、加藤希映美、加藤清悟、加藤千晶、加藤敏巳、加藤智子、加藤大貴、加藤真理、加藤学、加藤会計事務所 加藤康夫、金澤貴代美、金田清治、金田佐代、兼光徳育、金安直美、加野真琴、上梅澤保博、上久保幸市、上堂地昭、神谷和弘、加門由規子、唐松和子、川上静子、川口純子、川口好恵、川端彩加、河端勲、川端一史、川端斗雄、川端友人、川端友佳子、川原教紬子、川東正和、河本智子、川和勝也、川和福蔵、川和祐己、菊川美由紀、菊田碧、菊池久美子、岸井弘、岸本修、岸本真衣、北井重盛、北島美千代、北谷将之、北辻研人、北野毅、北野智子、北野商事(株) 北野聖美、北村恒男、北村宜照、木津明美、木津奈利香、木津美里、木津靖章、鬼頭咲弥、鬼頭典江、鬼頭真由美、鬼頭佑弥、木戸口文孝、木下万由美、木下泰伸、木下由美、紀平昌輝、木村文香、木村忍、木村順子、木村友紀、木村寛子、木村宜克、京谷充訓、日下部博美、串信考、工島誠湖、工島芽穂、楠野由貴、工藤早苗、工藤比佐吉、工藤優茄、國本ゆかり、久野郁雄、久野韶光、久保田和美、久保田佐知子、久保田敏裕、久保田誠、熊野雅美、倉科空明、倉科智恵子、

水越あかね、水越和幸、水谷泉、水野大策、水野高德、三井誠、光田炎、光弘
恵美、皆川美和子、南武司、南真弓、南川文明、南澤稔秋、南野謙博、南野里
沙、源準一、源美佐代、三橋鉄雄、三原由記子、美馬喜美子、味村康司、三村
浩章、宮内隆、宮内涼祐、宮口友宏、三宅貴子、宮澤ひろみ、宮所沙緒里、
宮所典世、宮林萌、宮本晋和、宮本邦子、向井美香、武藤由貴、村井明子、
村田和一、村田ルリ子、村橋季枝、村本裕次、村山暎、村山明美、物江龍太、
森口泰徳、森崎裕子、森下典子、森下郁子、森田良司、森竹佑真、森本薫、
森脇みどり、門田幸雄、

(七) 八板仁、八板陽子、矢口大樹、矢代多喜江、YasukagayamaGraham、安田由
美子、柳川満、山一建設(株) 口地一三三、山岡由美子、山乙紋華、山形輝美、
山形誠、山上久美子、山上由美、山口貴裕、山口毅、山口ひろみ、山口正春、
山口美紀、山崎有喜、山崎かおり、山崎和信、山崎睦子、山寄利恵子、山口建
材(資) 那須富士夫、山田詩、山田絆、山田高史、山田千恵子、山田知香、
山田直子、山田宏、山田基開、山田義富、山戸理恵、山中紗也賀、山中英之、
山中正行、山中由季子、山西一善、山西善信、山根さく子、山根稔、山野哲央、
山本育子、山本勝実、山本桂、山本俊光、山本尚子、山本英世、山本夕理恵、
山本祥之、山本亮、山本玲子、山脇禎喜、(有)アレス、(有)現代健康研究所
高橋富男、(有)近藤不動産 近藤英世、(有)山正 山口裕与、(有)異纖維工業所、
(有)了之総健とちの木薬局 石川知之、(有)中谷工務店 中谷益彦、(有)中村石
油店 中村公一、(有)バグース 山田一彦、(有)ビック釣具店 横山登隆、(有)
ビック釣具店 横山晴也、(有)廣神デンタルサービス 廣神真知子、(有)御宿工
業所 杉山暎彦、(有)柳沼鉄筋工業 柳沼妙子、(有)リエート 増田信子、(有)
誠心理化、湯川佳代子、横江明美、横岡浩幸、横田明久、横山謙二、横山洋
一、吉井商事、吉岡恵里子、吉川禎夫、吉澤俊一、吉田かほり、吉田園枝、
吉田知洋、吉田紘樹、吉田昌樹、吉田雅悦、吉田由佳、吉田由美子、吉田龍永、
吉村富美江、米井裕司、米原美香、

一般奉賛者一覽

敬称略(令和六年一月一日〜令和六年六月末日)

(八) 相方正和、青田真紀、青柳鎮男、アカデミー(株) 花島淳一、穂本智栄子、
秋山吉正、浅坂綾子、浅田勝司、麻日(株) 江藤富士江、東寿子、東喜則、
荒木義喜、栗野祐子、(医)心医会大倉診療所 大倉利生、飯田享、池口敦子、

池田俱子、石川愛子、石川哲規、石川満帆、石川資浩、石古貴士、石のかつら岩
崎弘司、井手幸信、伊藤春朝、伊藤正和、稲岡亜里子、稲田晋作、井上純子、
井畑孝敏、今井才三、岩元正樹、岩本正史、上江佐和、植田恵子、植永淳子、
上山誠治、魚谷直毅、内海龍子、宇野司、浦島觀光ホテル(株) 山水館川湯みど
りや 名淵敬、江崎三基、NKGインフオテック(株) 中垣浩一、蔭地野清志、
大字猿飼、大井史朗、大井由喜子、大倉富美子、大越大助、大澤啓徳、太田知孝、
太田治次、大村恵美子、大家重治、岡崎宗子、小笠原幸子、小笠原雅則、岡田喜
久男、岡部絹子、沖周治、奥岩大、奥靖枝、奥村敏子、尾崎静代、尾中修、小野
優一、音揃技建(株) 音揃博文、

(九) (株) アドバンス 平井宏治、(株) うぐち工業 鶴口勝、(株) エム・シー富士
松井英樹、(株) OJHH、(株) カクト鈴木商店 鈴木潔、(株) クリスロン 高山
元嘉、(株) ケイ・ツィネットワーク 栗野兼信、(株) 光和MDC 飯野秀和、(株)
三共 上垣建二、(株) 太紀企画 倉前太、(株) 中和コンストラクション 大浦晃平、
(株) 統建 勝田浩史、(株) 野嶋石材店 野嶋正之、(株) 富士リアルエステートサー
ビス 井出勝則、(株) PRAY 石塚克也、(株) 和昇 遠藤和尊、甲斐資子、皆氣
愛光、柿木敏和、梶川光澄、兼子弥子、金山博行、狩野英己、紙上和子、加村佳
子、假家英明、川合祥文、川中俊香、河村純子、菊池和代、岸田節子、岸本圭司、
木田タズ子、北國英一、北谷将之、北野貴志、城戸勇、衣川徳香、木村知子、
木本孝子、協立産業(株)、久保田康裕、久間美智代、栗田裕子、栗野兼信、黒田
将由、小池美苗、光野甲陽、光明院 荒井正道、古賀博英、小久保功也、小坂篤
司、越水泰行、小杉正佳、古田島康、古都音(株) 福田彩乃、小浜久志、小濱宗
子、小林利幸、小林理恵子、近藤順子、幸次郎、

(十) 榊間正子、坂下清和、坂田憲治、佐古金一、笹本昌邦、貞綱仁、佐藤翔、
佐藤のり子、佐藤雄喜、佐野弘美、佐野征子、澤野智明樹、山東美晴、椎原雅美、
塩見直也、紫倉保子、芝澄夫、芝本牧子、島鉦博、嶋中信一、下村厚視、写経の
友橋 榊原タカ子、穂本興業(株)、新谷昭代、須川輝一、須川幸、頭師浩正、
頭師正美、鈴木美枝子、鈴木通子、鈴木満、青岸渡寺熊野修験、

(十一) 高垣昌子、高瀬恵子、高瀬隆雄、高田盟子、高橋千佳子、高橋博美、高橋正
邦、高橋美起子、高松真理、高山和之、高山浩二、竹田しづ乃、竹中规子、田島
重光、達川陽介、田中勝美、田中源一郎、田中常一郎、田中秀樹、田中優成、
田中稔、田中恵宮、田中裕子、田中佑典、田鍋敦子、田邊秀樹、谷口章子、田野
上辰也、田花館 田花敏郎、玉置克己、玉置行祐、玉置貞則、玉置倬生、玉置秀
男、玉置正澄、玉野晶子、知念光博、千葉和教、千葉範子、對馬史子、辻村啓之、
土田栄子、土屋卓義、土屋直明、堤野澄子、寺嶋孝、天台寺門宗、東和奉産(株)、
戸金玉記、時英津子、戸塚葉子、十津川村観光協会、十津川村森林組合、十津
川村ホテル旅館組合、富田守、豊島あき子、

〔ナ〕中精一、中隆村、仲正人、中昌永、永井勝美、中井知江子、中井良子、中尾幹子、中垣正、長澤陽一、長島さやか、中島典子、永田将士、長竹正泰、中西祥夫、中埜武治、成山育子、新倉和子、西浦壽一、西田晃幸、西野雅子、新田孝、二宮努、沼田芳栄、野上建設(株) 野上大介、

〔ハ〕萩原伊紀子、橋本幸子、蓮沼三恵子、秦美智子、服部倫栄、花島良江、濱島栄伊、濱名莊甫、濱中宏介、早川恭弘、林眞理子、原田良雄、ピースフル、ピースフル 中綱代、日浦建設 後木光雅、東勉、東眞民、樋口浩、飛彈桂子、飛彈誠、平山高之、広実常久、福井眞理子、福留淑美、藤井孝子、藤井浩之、富士居身佳、藤澤豊、藤田清豊、藤林善美、藤若敏実、藤原浩樹、古田友和、法徳堂 山本陽子、朴澤大輔、堀隆、本部眞吾、本部めぐみ、本間慶子、本間ナヲエ、

〔マ〕前田正伸、前野寛、巻島みどり、松井英樹、松井雅代、松村哲、松本茂乃、松本美代子、松本律子、松山朋美、丸山昌三、三笠貴史、三上蓮浄、三木康弘、水嶋啓一、溝手直幸、南方美紀、南武雄、峯廻寛、三橋鉄雄、宮部俊雄、宮本輝紀、村田和正、村田充男、村田佳子、森隆晃、森多美子、森弘子、森泰幸、森雄三、森崎隆夫、森下起佳、森下直子、森地久治、

〔ヤ〕築瀬恵美、山岡由佳、山崎耕一、山崎眞理子、山城眞美、山田晃子、山田祥、山田智広、山田早人、山中富士夫、山本一隆、山本茂、山本武弘、(有)信光 大内誠弘、(有)ファーストブルー 荒澤佑侍、(有)松本運送 松本清、横田昭美、吉川令子、

〔ラ〕鷲尾隆元

ご紹介！周辺施設

空中の村



ツリーハウスで過ごす、フランスから来た大人の遊び場。昼も夜も森を楽しめる施設です。

フランスの技術により設けられた**空中に浮かぶ施設**です。木々の間に設けられた綱の吊り橋やプラットホーム、憩いの場を行き来しながら**森林浴**が楽しめます。

紀伊半島森林植物公園内のこの施設へは、当神社から**車で凡そ十七分**です。

社務日誌より

令和五年

- 十二・二 宮司・責任役員村長表敬
- 十二・三 鹿児島県十津川農場一行 四人正式参拝
- 十二・七 山之神例祭並びに鳥居奉納奉告祭(東造林) 安慶名辰樹氏他三人 奉納演奏
- 十二・二五 責任役員及び氏子総代 新春準備奉仕活動

令和六年

- 十二・二七 煤祓い神事
- 十二・三二 年越の大祓式 除夜祭
- 一・一 歳旦祭
- 一・一六 会計監査
- 一・二六 奈良県警察本部長来社 古神符焚上祭
- 二・三 大日堂転換祭
- 二・一四 週刊新潮取材
- 二・二七 祈年祭
- 三・七 三柱神社初午祭 (約百人参列)
- 三・二〇 出雲大社教玉置教会祖霊祭 責任役員会
- 三・三〇 (新年度予算案の決定)
- 四・三 若宮社・神武社例祭
- 四・九 奈良県文化財保存課長以下 七人来社
- 四・十 宮司 村長表敬 会計監査 決算報告
- 四・二〇 青岸渡寺熊野修験 約三十人参拝
- 五・六 白山社例祭 鳥居奉納奉告祭
- 五・一三 玉石社例祭
- 五・一四 出雲大社教玉置教会例祭
- 五・一五 神輿殿起工奉告祭
- 五・二一 真名井社例祭 会計監査

編集後記

いつも心を和ませ、元気付けてくれるのが境内に自生する「イワヒバ」別名「岩松」である。イワヒバ科に属するシダ植物の一つでその花言葉は、「負けな心」「長寿」「稔り」であり、この植物そのままの姿を表していると感ずる。

一昨年の真冬は、凡そ五十センチの積雪があった。その積雪に埋もれ、しかも社殿の屋根から落ちてくる雪にも埋もれるため、一メートルに近い積雪の下でずっと息を潜めるように生き抜く。葉身を握り拳のように閉じて雪解けを待つその姿は、まさに花言葉に表現されていると言える。

玉置山は、植物の宝庫でもある。私たちは、この自然を大切に護るという責任があることを強く思う。皆さんのご理解とご協力を切に念じるこの頃である。



